

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2022年 3月 7日

事業所名 きずな学園LEGON Kids天満宙組

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	72%	18%	目的に応じてフロアをわけて活動している。	コロナの関係でソーシャルディスタンスなどに留意し、適切な距離感を保ち、工夫を継続していく。
	2	職員の配置数は適切である	83%	17%	常勤職員と非常勤職員とでシフトを組んで適切な配置を行っている。	人員配置は適切な人数だが、配慮が必要な児童も多いため、配置を検討する。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	83%	17%	荷物を置く棚や靴に名前をつけている。	バリアフリー化は完全には出来ていないため、順次改善を行う。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	92%	8%		非常勤職員には機会がなかなかない為、今後参画できるものを検討する。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	67%	8%		・4月開所のためこれから行う。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	25%	50%		・4月開所のためこれから行う。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	25%	67%	他事業所からの見学や研修を受け入れて行っている。	課題が見つかった場合は改善努力をしている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	83%	17%	研修に参加した際は、職員間で共有を行っている。	非常勤職員には機会がなかなかない為、今後参画できるものを検討していく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	活動の立案は全職員が行い、偏りがないように工夫している	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	活動の立案は全職員が行い、偏りがないように工夫している	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	92%	8%	活動の立案は全職員が行い、偏りがないように工夫している	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	92%	8%		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝礼を行い、来所児童の共有、ホワイトボードを使用し、視覚化している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	終礼を行い、児童の情報の共有や改善点の検討を行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	リズムの活用。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	91%	0%			

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	91%	9%		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	91%	9%	主に保護者との連携を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	82%	9%	現在利用なし	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	82%	18%	主に保護者との連携を行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	55%	18%		
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	58%	42%	コロナのため延期	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	9%	91%		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	40%	60%	コロナのため自粛	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳を使って共有するほか、面談や電話で共通理解を持っている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	73%	27%		今後検討する。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		管理者が対応している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	フィードバック時に専門職が添乗し、話を行うなど機会を設けている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	36%	64%		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	保護者に来所して頂き、改善の確認を行った。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	83%	17%		
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	書類の配布はダブルチェックを行っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	25%	75%		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	92%	8%	感染症対策や緊急時マニュアル等は契約時に配布を行っている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	避難訓練を実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	92%	8%	虐待についての研修に参加している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	契約時に説明している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	アセスメント時に対応など確認している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	